



# 先輩たちには聞きました

子育ての体験談を聞く機会は、意外に少ないものです。先輩たちの失敗談や苦労話の中から、子育てのヒントをいただきましょう。



## 一人娘の一人暮らし

大学生になり一人暮らしをはじめた娘の部屋。久しぶりに会う嬉しい気分でもドアを開けたとたん、失敗したかも。この部屋は何？本当に女の子の部屋？足の踏み場も無い。こんなことなら、小さい頃から家事を手伝わせておけばよかったわ。



手伝いは、親のためではなく子どもの将来のためなんです。興味を示したもから始めさせてみましょう。

## わが家の住宅事情

我が家は狭い。子ども部屋も一つ、三人とも同じ部屋だった。年頃にはかわいそうかとも考えたけど、独立してからも互いに連絡を取り合い助け合っているようだ。狭い我が家がきょうだい仲にはよかつたのかもしれない。



子どもに快適な環境を用意することが親の役目だと思いがちですが、今ある環境で工夫しながら生活することの方が大切なんです。

## べたべたより、ぎゅっ!



今のママって愛情表現、誤解してないかね。え。手取り足取り何でも先回りしている感じがするよ。ちょっと心配しすぎじゃないかい。べたべたスキンシップでは、今に子どもが、うっとうしがかるよ。

すぐそばでいつも手助けをしないと不安になるのはママの方なのかもしれない。タイミングよく「ぎゅっ」と抱きしめること、それだけで愛情は伝わるんですね。

子どもの笑顔は家庭の宝です。わたしたちも笑顔で元気に子育てを楽しみましょう。

### 育てたように育つ



「この子は、自分の気持ちをはっきりと言えなくて。」  
「あなたは、子どもの思いをじっくりと聞いてあげていますか。子どものためだと思って、先回りして用意していませんか。」  
「この子は、すぐ文句を言うんですよ。」  
「あなたは、日頃感謝の言葉を、例えば「ありがとう」と、口に出しておられますか。子どもの前で「近所や他人のうわさ話や陰口などしていませんか。」  
「どうしてこんな子になってしまったのかしら。」  
「それは、あなたがそうなるように育てたからなのです。」  
誰の責任でもない。自分の子は自分が責任を持って育てなくてはなりません。「育てたように育つ」、当たり前で

すが、子育ては、毎日の積み重ね、親が「今子育てを行っている」と意識しているようがいまいが、日々の家庭生活の中で子どもは育つていつているのです。  
「親の背中を見て育つ」という言葉があります。これはなにも、働いている姿を子どもに直に見せよと言う意味だけではないでしょう。ここで言う「親の背中」とは、親の「人としての生き方」を表しているのです。周りのご家庭を思い浮かべてみてください。  
遊びに来たときに、おもちゃをきちんと後始末するあの子。その子の家の周りは、いつもきれいでありませんか。  
人に親切なあの子。そのお父さんは、地域の奉仕作業に積極的に参加しておられるではありませんか。  
はきはき返事をして行儀がよいあの子。その子のお母さんは出会うたびに向こうからあいさつをしてくださるのではありませんか。  
子は親の鏡と言いますから、私たちはこのように、子どもをみて親御さんを判断することがあるのではないのでしょうか。人のことはよく見えます。  
さて、あなたのご家庭はいかがでしょう。子どものことをいろいろ言う前に、自分自身の生き方、生活の仕方を振り返ってみるのも、子育てには必要だと思います。

「水滴」とは「しずく」という意味。しずくも集まれば、やがて大河となることの願いを込めて。